

令和7年度第3回 西九州させぼ広域都市圏協議会資料

3 議事

- (1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

日時:令和8年3月26日(木)13:30～
場所:佐世保市役所 5階 庁議室

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

関係市町との協議・調整の結果、西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンに係る令和8年度の新規・拡充事業は以下のとおりとする。
 (連携事業数：42事業 → 43事業)

	役割	連携事業
新規	ア 圏域全体の経済成長のけん引	No.43 産学官連携による人材育成に関する検討
	ア 圏域全体の経済成長のけん引	No.5 ハウステンボスとの連携等による長期滞在型周遊観光の推進 (現行の事業名：広域連携による周遊観光の推進)
拡充	ウ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	No.15 地域医療の確保に関する取組

新規事業である「産学官連携による人材育成に関する検討」は、3つの役割のうち「ア 圏域全体の経済成長のけん引」に位置づけることとする。
 ※事業番号のズレが生じないように、No.43として追加する。

役割	No.	連携事業
ア 圏域全体の経済成長のけん引	1	西九州させぼ広域都市圏ビジョン懇談会等運営
	2	創業支援の連携
	3	農水産物等特産品販路拡大
	4	共同物産展の開催
	5	広域連携による周遊観光の推進
	6	自治体新電力を活用したGX事業の構築
	7	圏域内企業の認知度向上



役割	No.	連携事業
ア 圏域全体の経済成長のけん引	1	西九州させぼ広域都市圏ビジョン懇談会等運営
	2	創業支援の連携
	3	農水産物等特産品販路拡大
	4	共同物産展の開催
	5	ハウステンボスとの連携等による長期滞在型周遊観光の推進
	6	自治体新電力を活用したGX事業の構築
	7	圏域内企業の認知度向上
	43	産学官連携による人材育成に関する検討

(1) 西九州させば広域都市圏第2期ビジョンの変更について

新規 No.43 産学官連携による人材育成に関する検討

【前回資料】

事業名	産学官連携による人材育成に関する検討											新規	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 佐世保工業高等専門学校の立地や長崎国際大学理工系学部の新設等を背景として、地域産業の振興、人材の地元定着、企業誘致促進などを目的に産学官連携の拠点機能に関する検討を行う。 												
関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
連携による効果	圏域における人材確保のインセンティブになるような産学官連携の拠点機能に関する検討を行うことにより、将来的な機能構築及び圏域の競争力向上につなげる												
事業費見込額(千円)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	合計							
	web会議予定のため、事業費なしの予定												
国及び県補助制度等	—												
役割分担	佐世保市	産学官連携の拠点機能に関する提案・協議・調整を行う。											
	関係市町	産学官連携の拠点機能に関する協議・調整を行う。											
KPI(重要業績評価指標)	指標		現状値(令和5年度)				目標値(令和10年度)						
	検討事業のため、KPI設定なし												

【ビジョン案】

令和8年度追加事業

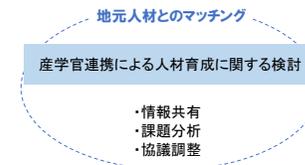
NO 43 産学官連携による人材育成に関する検討

KPI(重要業績評価指標)

	現状値(令和6年度)	目標値(令和10年度)
—	—	—

(事業概要)

- 佐世保工業高等専門学校の立地や長崎国際大学理工系学部の新設等を背景として、地域産業の振興、人材の地元定着、企業誘致促進などを目的に産学官連携の拠点機能に関する検討を行う。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
連携による効果	圏域における人材確保のインセンティブになるような産学官連携の拠点機能に関する検討を行うことにより、将来的な機能構築及び圏域の競争力向上に繋げる。												
事業費見込額(千円)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	合計							
	—	—	—	—	—	—							
国及び県補助制度等	—												
役割分担	佐世保市	産学官連携の拠点機能に関する提案・協議・調整を行う。											
	関係市町	産学官連携の拠点機能に関する協議・調整を行う。											

(1) 西九州させば広域都市圏第2期ビジョンの変更について

拡充 No.5 ハウステンボスとの連携等による長期滞在型周遊観光の推進（現行の事業名：広域連携による周遊観光の推進）

【現行ビジョン】

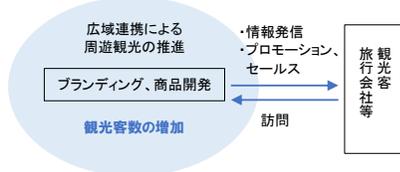
NO 5 広域連携による周遊観光の推進

KPI（重要業績評価指標）

	現状値(令和3年度)	目標値(令和10年度)
圏域における観光客数	8,186,661人/年	14,838,000人/年

（事業概要）

- 圏域内に点在する観光施設や体験メニュー、イベントなど観光素材の棚卸を行い市場の特性に応じた磨き上げに取り組みながら旅行商品化を図る。
- 本圏域で最大の集客力を誇るハウステンボスの来訪客の取り込みを含め、広く圏域内の周遊促進につなげる。
- 圏域内の観光素材を活用した観光客へのプロモーションを行い、佐世保市を起点とした域内周遊観光の促進による地域経済活性化を図る。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
連携による効果	造成した旅行商品を機に来訪した観光客の周遊による圏域の経済活性化												
事業費見込額(千円)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	合計							
	16,754	16,754	16,754	16,754	16,754	83,770							
国及び県補助制度等	-												
役割分担	佐世保市	圏域内のコンテンツ造成・販路開拓・プロモーション等にかかる企画立案と各関係市町との調整を行う。											
	関係市町	観光素材の棚卸・磨き上げによるコンテンツ造成(事業者、団体等との調整)を行う。											

【ビジョン改定案】

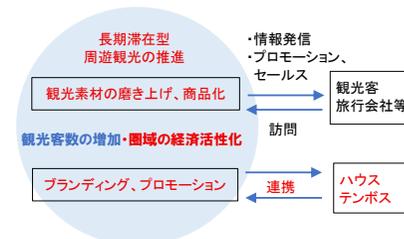
NO 5 ハウステンボスとの連携等による長期滞在型周遊観光の推進

KPI（重要業績評価指標）

	現状値(令和3年度)	目標値(令和10年度)
圏域における観光客数	8,186,661人/年	14,838,000人/年

（事業概要）

- 圏域内に点在する観光素材の磨き上げに取り組みながらインバウンド向けの旅行商品化を図るとともに、プロモーションを実施する。
- 各市町がそれぞれに有する「食」、「歴史・文化」、「自然」を最大限活用しながら長期滞在エリアとしての魅力を高めるため、ハウステンボスとの連携により、観光コンテンツの開発や旅行者を圏域へ呼び込むためのブランディング及びプロモーション等を行う。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
連携による効果	長期滞在型周遊観光の推進による圏域の経済活性化												
事業費見込額(千円)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	合計							
	16,754	16,754	16,754	16,754	16,754	83,770							
国及び県補助制度等	- 事業化に向けて協議を継続中 ※来年度の改定時に修正予定												
役割分担	佐世保市	圏域内のコンテンツ造成やハウステンボスとの連携事業に係る企画立案及び連携事業、関係市町との調整を行う。											
	関係市町	観光素材の棚卸・磨き上げによるコンテンツ造成(事業者、団体等との調整)、ハウステンボスとの連携事業を行う。											

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

拡充 No.15 地域医療の確保に関する取組

1 経緯

【二次救急医療体制に係る負担金の見直し検討について】

- これまでの本市二次救急医療体制について、佐世保県北医療圏を構成する佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町に加え、救急患者の搬送の実態などから、西海市も含む4市1町による応分の負担により維持・確保がなされてきた。
- 負担のあり方について各市町から見直しの要望があり、令和2年度から検討を行い、今年度合意に至るところまできた。

第2回協議会(R8.11)における佐々町長の発言

二次救急医療を連携事業として位置付ければ特別交付税措置の対象になるかどうか、事務局の方で確認してほしい。

- 他広域都市圏においても、連携事業に位置付けている事例あり
- 佐世保市、平戸市、松浦市、西海市、佐々町の事業担当課間において、連携事業を拡充する方向で検討を実施
- 2月13日開催の事業担当課会議にて合意済み ※連携事業の参画市町である東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町も含め合意

2 特別交付税措置

市町	① R7措置上限額	② 特別交付税R7措置額	③ 二次救急医療事業事業費	④ 二次救急医療事業の措置予定額	⑤ 措置上限額との差 ※①-(②+④)
佐世保市	116,694	31,372	65,139	52,111	33,211
平戸市	18,000	8,318	5,655	4,524	5,158
松浦市	18,000	1,650	3,309	2,647	13,703
西海市	18,000	1,674	3,344	2,675	13,651
佐々町	18,000	2,572	5,895	4,716	10,712

③×0.8 単位:千円

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

拡充 No.15 地域医療の確保に関する取組

【現行ビジョン】

NO 15 地域医療の確保に関する取組

KPI（重要業績評価指標）

	現状値(令和4年)	目標値(令和10年)
関係市町内の救急搬送者に占める軽症者の割合	31.9%/年	31.9%/年

（事業概要）

- 関係市町が連携し、初期から二次救急医療体制に関して検討し、住民への普及啓発も併せ、圏域として地域医療を守るための取組を行う。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
		●	●	●	●	●	●	●	●	●			
連携による効果	圏域内の地域医療提供体制の確保・充実												
事業費見込額(千円)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	合計							
	6,291	13,246	13,246	13,246	13,246	59,275							
国及び県補助制度等	—												
役割分担	佐世保市	中心市として各種事業の調整・推進を行う。											
	関係市町	中心市と連携し、各種事業の協力・推進を行う。											

【ビジョン改定案】

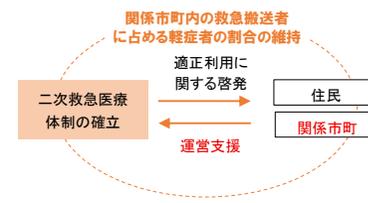
NO 15 地域医療の確保に関する取組

KPI（重要業績評価指標）

	現状値(令和4年)	目標値(令和10年)
関係市町内の救急搬送者に占める軽症者の割合	31.9%/年	31.9%/年

（事業概要）

- 関係市町が連携し、初期から二次救急医療体制に関して検討し、住民への普及啓発も併せ、圏域として地域医療を守るための取組を行う。
- 二次救急医療体制の維持・確保のための支援を行う。



関係市町構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
		●	●	●	●	①	①	①	①	●			
連携による効果	圏域内の地域医療提供体制の確保・充実												
事業費見込額(千円)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	合計							
	6,291	13,246	115,333	115,333	115,333	365,536							
国及び県補助制度等	—												
役割分担	佐世保市	<ul style="list-style-type: none"> 中心市として各種事業の調整・推進を行う。 現行二次救急医療の維持・確保及び将来的に持続可能な体制の検討を行う。 											
	関係市町	<ul style="list-style-type: none"> 中心市と連携し、各種事業の協力・推進を行う。 救急医療における現状・課題の把握・分析及び二次救急医療体制の維持・確保に係る費用負担を行う。 											

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

構成市町の変更に伴う修正(事業費負担の影響なし、連携協約変更なし)

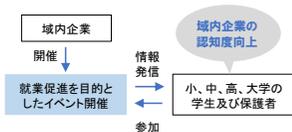
NO 7 圏域内企業の認知度向上

KPI (重要業績評価指標)

	現状値(令和4年度)	目標値(令和10年度)
参加者に対するアンケート調査結果(認知度件数割合)	—	80%/年

(事業概要)

- 市内企業等が実施する、就業促進等を目的としたイベントに対する補助の対象地域を圏域に拡大。
- 参加市町数に応じた補助の上乗せにより、圏域内企業の認知を高めることで、地元定着を図る。
- イベントの対象者は小・中学生、高校生、大学生等及び子供の進路に影響がある保護者を想定。



関係市町 構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●		●	—	●	●	●		●				6

▲1 西海市

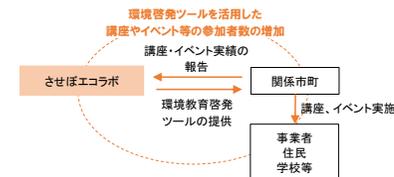
NO 32 圏域内のエコライフ推進 (「させぼエコラボ」環境啓発ツールの広域展開)

KPI (重要業績評価指標)

	現状値(令和4年度)	目標値(令和10年度)
環境啓発ツールを活用した講座やイベント等の参加者数	—	620人/年

(事業概要)

- 佐世保市地球温暖化防止活動推進センター「させぼエコラボ」が講座等で使用している環境教育啓発ツールを提供することで、圏域内のカーボンニュートラルを始めとした環境教育の充実を図る。



関係市町 構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●	●	●	●	●	●	●	●	●				9

+1 小値賀町

NO 21 ファミリー・サポート・センターの充実

KPI (重要業績評価指標)

	現状値(令和4年度)	目標値(令和10年度)
提供会員の新規登録者数	9人/年	15人/年

(事業概要)

- 佐世保市を含む4市5町において、圏域におけるファミリーサポートセンター事業の充実を図る。
- 3市2町(佐世保市・平戸市・西海市・東彼杵町・波佐見町)においては、会員養成講座等を相互に受講可能とする。また、情報交換会を開催するなど、ファミリーサポートセンター実施団体同士の交流を図る。
- 1市3町(松浦市・川棚町・小値賀町・佐々町)においては、視察の受け入れや助言等、事業立ち上げの支援を行う。



関係市町 構成数	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
	●	●	●	●	●	●	●	●	●				9

+2 東彼杵町
小値賀町

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

令和8年3月17日開催 西九州させぼ広域都市圏ビジョン懇談会でのご意見

	委員名	所属	ご意見
産学官 連携	吉本会長	長崎県立大学	<ul style="list-style-type: none">・ 来年4月に開設される新学部の1期生が5年後に卒業することを見据え、卒業生をいかに地元に着させるかが課題である。・ 学生が地元で就職するためには、<u>地元の企業側に「学生を受け入れる」という強い考えや思いを持ってもらう必要がある。</u>・ 5年後の卒業時になってから考えるのではなく、在学期間中を含むこれからの5年間のうちに、企業に対して卒業後のことを見据えた働きかけを今から想定して進めていく必要がある。
	橋本副会長	西九州大学	<ul style="list-style-type: none">・ 大学が一つなくなることは、中堅企業が消えることと同義であり、学生や教職員の減少は地域経済に甚大な損害を与える。・ 大学は単なる学問の場ではなく、地域活性化の大きな拠点である。・ 国公立大学が世界的な研究に注力し、卒業生が全国へ流出しがちな一方で、私立大学は伝統的に地域の「エッセンシャルワーカー」を輩出し、地域のニーズに応じてきた実績があるため、地域の私立大学を再評価し、積極的に活用すべき。・ <u>地域の企業が積極的にインターンシップを受け入れ、自社の課題や必要とする人材像を学生に伝えることが重要である。</u>・ これにより学生が地元企業に興味を持ち、地域の課題を解決するための担い手として定着するきっかけになる。・ 多くの私立大学が定員確保に苦しみ、経営の危機に瀕している現状がある。・ <u>地域が大学を盛り立て、育てた人材を地元企業が雇用するという「教育と雇用の好循環」を作ることが、地域の持続的な発展につながる。</u>
	齋藤委員	伊万里商工会議所	<ul style="list-style-type: none">・ 佐賀県内でも県立大学の設置や武雄アジア大学の開学が予定される中、大学がない伊万里市にとって、<u>長崎国際大学の新学部設置に伴う産学官連携は非常に重要である。</u>・ 各大学からインターンシップの依頼が頻繁に来るようになり、商工団体の役割を再認識している一方で、大学と学生、企業が直接やり取りするのか、あるいは組織的な受け入れ体制を作るべきなのか、効果的な仕組みづくりに悩んでいる。・ また、産業界では外国人人材が急増しており、企業から日本語教育などの支援をどうするかという相談が増えている。・ 小さな自治体の商工会議所単独では対応が難しいため、広域的な連携や大学によるセミナーなどの支援を期待している。・ これらの「インターンシップの組織化」や「外国人人材の教育支援」といった課題を、広域都市圏ビジョンの中に盛り込み、連携して取り組むことができないか。

(1) 西九州させぼ広域都市圏第2期ビジョンの変更について

令和8年3月17日開催 西九州させぼ広域都市圏ビジョン懇談会でのご意見

	委員名	所属	ご意見
産学官連携 (続き)	前平委員	かわたな観光まちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> 長崎国際大学の学生と地域活動を通じて深く交流し、優秀な人材に「地域に残ってほしい」と願っても、最終的には給与水準の高い首都圏や福岡へ流出してしまう。仕事内容に興味があっても、「時給や給料の低さ」が大きな障壁となっている。 就職だけでなく、地元での「起業」も有力な選択肢として学生に伝えるべきであり、実際にデザイン会社を起業した学生の事例もあることから、若い世代同士で成功例を共有することが、地元に残る動機付けになるのではないか。 川棚町大崎半島での事例として、学生が観光コンテンツの指導資格を取得し、需要がある際にバイト代を支払って手伝ってもらう「人材登録制度」をつくっている。少額の対価であっても、在学中から地域と継続的な接点を持ち続けることが重要。
周遊観光	齋藤委員	伊万里商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> 伊万里市内の古民家所有者が主体となり、「分散型ホテル」を創出するプロジェクトが進められている。 今年1月に運営を担う特別会社が設立され、まずは市の文化財指定を受けた建物を含む3件程度の整備を計画しており、地元商工会議所も出資を含めたバックアップを検討している。 整備には数億円規模の多額の費用が必要だが、行政主導のまちづくり会社ではなく民間所有者が中心となっているため、自主財源の確保や資金調達が大きな課題となっている。 自主財源に対して何かカバーするような制度があれば加速的に進むのではないかと期待がある。
	前田委員	有田商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> 有田町では、令和7年度から5年間の計画で、国のファンド等の支援を受け、町内の古民家を宿泊施設、飲食店、ギャラリーなどにリノベーションし運営事業者を入れて観光活性化を図っており、その受け皿として商工会議所が機能している。 従来、古民家再生は多額の改修コストが障壁となっていたが、支援制度の活用により具体的な事業化が可能となり、計画している3件のうち、すでに2件の改修が進んでいる。 今後、ハウステンボスとの連携も具体的に進むことを期待しており、また、リノベーションしたレストラン等で提供する食材について、自町内だけでは不足する分を西九州させぼ広域都市圏の自治体と連携して調達していきたい。
その他	田中委員	ながさき西海農業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> 農協では3市2町(佐世保・平戸・松浦・佐々・小値賀)にわたる広範なエリアをカバーしているが、離島や半島など圏域の隅々までサービスを維持することが困難な状況にある。 郵便局や金融機関が少ない地域において、農協が住民の生活に資する重要なライフラインを担っているが、農協単独での維持は限界にきているため、行政には隅々まで目を向けてほしい。 人口が多いところで稼いで地域に還元するかたちをとらなければ存続すら危ない状況であるため、離島や半島のことについても広域の取り組みの中で検討してほしい。